

国土交通省関東地方整備局港湾空港部
港湾物流企画室長 野口孝俊

みなと横須賀は近代化遺産の宝庫

ペリーが久里浜に上陸し、日本が開国して以来、横須賀には産業振興・軍事関係施設が多く建設され、現在でも多くの施設が使用されている。人間が作り出した「人文景観」特に明治時代の煉瓦造りの建物が多く残され、横須賀製鉄所や浦賀ドックなど港に関係する施設や東京湾要塞と呼ばれる軍事施設も多く残されている。「東京駅復原」「富岡製糸場」「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録と近代化遺産の風が吹いている。



横須賀線浦田隧道（現役）

海から見える景観

平成 26 年 10 月の晴れた午後、第二海堡から珍しい風景がみられた。「東京湾に浮かぶ船、浮かぶ富津火力発電所」東京湾にも蜃気楼が出現した。海から陸をみる風景は機会が少ないが、非常に珍しい光景も見られることができる東京湾は「自然景観」も美しい。



第二海堡からの蜃気楼（H26.10.20）

東京湾要塞のひとつ「第二海堡」

横須賀市内と沖合には20を超える砲台が築造され国土防衛の任務を担っていた。神奈川県横須賀市と千葉県富津市の間には大型船舶の航行可能な深い地形が溝のように繋がっている。ペ



東京湾の湾口に作られた海堡



第二海堡（H27.3）

リーもこの浦賀水道航路を使って品川沖まで進攻した。第一海堡から第三海堡は日清・日露戦争の時代背景により築造され、外国船が東京湾への入湾を阻止するために航路を挟んで海上要塞が順番に築造された。

「第二海堡」昔は外国船を攻撃する施設、今は外国船の安全を守る施設

第三海堡は航路に近接しており船舶座礁が続いたために撤去された。兵舎や防波堤のケーソンは引き上げられ、横須賀市文化財として展示されている。第二海堡は長年の波浪により人工島護岸が崩壊・浸食されていることから保全工事を実施中である。工事では崩壊していない個所を可能な限り保存する整備方針とし、崩壊したところは調査記録後工事を実施している。西洋土木技術を取り入れた日本土木技術黎明期の鉄筋コンクリート構造物や波浪を考慮した人工島建設技術などの明治期港湾築造技術の先駆事例が多く残されている。

軍事遺構ではあるが、それよりも明治の先駆者が外国に負けないように工夫して作った土木遺構としての技術的価値が特筆した近代化遺産の一つである。



砲台上に建設された灯台と航路監視施設



煉瓦で作られた掩蔽壕

横須賀建築探偵団 富澤喜美枝



半原水源地



上郷水管橋



逸見浄水場

幕末以来、海軍の街として発展してきた横須賀は、今年「横須賀製鉄所開設150年」の節目を迎えました。製鉄所で必要な用水は、慶応元年の製鉄所開設当初、所内の湧水を利用していましたが不足となったため、現在の汐入3丁目府当が谷の溜池から引水、これが軍港水道の発祥となりました。1876（明治9）年には走水系統が完成。日清戦争後、更に軍港施設の拡充・強化が必要となり、水需要が増大したため海軍は新たに水源を求め、愛川町半原の相模川支流、中津川から横須賀までの半原系統を建設することになりました。

軍港水道半原系は、風光明媚な中津川の石小屋と呼ばれる場所（現在の宮が瀬ダムの副ダム石小屋ダム下流）で取水し、500メートル先の水源池までレンガ積みの暗渠で導水、沈殿池を経て横須賀市逸見の浄水場まで送られ、緩速ろ過方式で浄水した後、海軍工廠（明治36年に改称）へ送水されました。水源地のベンチュリーメーター室に取り付けられた銘板には「横須賀軍港水道 起工明治45年2月 竣工大正10年3月」とあり、関係者の氏名も記されています。

半原水源地は標高約129メートル、逸見浄水場は同約58メートルで、約70メートルの標高差を利用した自然流化方式で全長約53キロを一日13000トン、500ミリの铸铁管で送水しました。この間の管路道を「横須賀軍港水道みち」と呼んでいて、愛川町から厚木市、海老名市、綾瀬市、藤沢市、鎌倉市、逗子市を通り横須賀市へと続いています。今回の踏査で、その間に17か所の隧道と大



小 18 か所の橋、独特の景観が知られるまっすぐな急坂、水道用地を示す《山形 2 条と海》や《海》と彫り込んだ海軍の石柱（境界杭）も 308 本確認できました。中でも高低差 42 メートル、全長 1, 4 キロの《みのわ坂》は水道坂として親しまれ、愛川町教育委員会が謂れを記した標柱を立てています。こうして水道みちは田園地帯、工業団地、工場敷地、住宅街、病院敷地、鉄道の下や川の下なども含めほぼ真っすぐに横須賀を目指し、一部の隧道は拡幅され生活道路として現在も利用されています。橋梁の代表格は、厚木と海老名を結ぶ相模川にかかる 10

山形二条と海と刻まれた境界杭 連トラスの上郷水管橋で全長 500 メートル、建設当初の大正初期の商標や海軍マークのある水道管が現存しています。橋梁柱には「大正 7 年 3 月竣工」の銘板が付けられています。これらの用地や施設などは戦後、横須賀市に移譲され、市民の水道となっていました。

半原系統は 2005（平成 27）年 3 月、約 10 年間の休止状態を経て廃止となりました。この壮大で貴重な近代の産業遺産である設備や機材を、湘南国際村水道局倉庫に一時保管し、今後の活用を目指す必要があると思います。